

# インディアナ日本語学校便り だいごう 第30号

令和6年1月13日事務所 317-255-1631 メール [ijls@indiana-j-school.net](mailto:ijls@indiana-j-school.net)

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

## 「しあわせ運べるように」・「群青」 ～神戸から東日本に、日本各地へ、そして世界に～

校長 森 勝義

能登半島地震から13日経ちました。少しずつ物資も届き始めています。学校が避難所になっているケースも多く、石川県内の公立小中高は11日時点で77校が休校中とのニュースがありました。輪島市教育委員会では子どもの学習機会を確保するため、市立中学校の全生徒約400人について一時的な集団避難を検討しているそうです。

しかし、ここから心配されるのは「心のケア」です。被災者の方は災害直後の悲惨な光景を思い出す「フラッシュバック」や、避難所のストレスなどで気持ちが落ち込んだりします。

私たちもテレビによる災害報道を見続けることにより被災者の方の苦しみに共感するあまり、自らの心がかたまってしまふ「共感疲労」という状態に陥ってしまう事があるそうです。

私自身、二人の知人が地震で亡くなりました。阪神淡路大震災で、レフェリー仲間が犠牲になったと知り慟哭し、東日本大震災では、ラグビー合宿で毎年お世話になっていた釜石漁港の居酒屋の女将さんも帰らぬ人となりました、地震のニュースのたびに、二人のことを思い出します。

さて、園児・児童・生徒や保護者の皆様に聞いていただきたい合唱曲がふたつあります。阪神淡路大震災後の神戸で生まれ、歌い継がれてきた「しあわせ運べるように」という曲です。

26年前、小学校の臼井真教諭が作詞作曲しました。臼井教諭は「この場所で歌えたことがしあわせだったし、子どもたちもいつまでも心の中に残してくれるんじゃないかなど。感謝の想いでいっぱいです。やっぱり使命感というか、この曲を作った時亡くなった方々の分もと、自分で書いたのですから26年間、ある意味、思いというか、震災というものを背負ってという大げさですけど、自分が書いた歌詞にうそをつかないようにという思いがあった。」と話されています。そしてこの曲は2021年、神戸市歌に制定されました。神戸から東日本に、日本各地へ、そして世界に広がっています。

もう1曲は福島県南相馬の中学校教諭小田美樹さんが作曲した「群青」です。南相馬の子どもたちが東日本大震災によって離れ離れになってしまった仲間を思って、つぶやいたり、書き留めた言葉をまとめて、それをつなぎ合わせて「群青」ができあがったそうです。

ラジオの深夜番組でこの二曲を聞いた時、思わず涙が流れました。すぐネットで調べて映像を観て、そして歌詞を読んだ時、感動のあまり涙しました。被災した児童生徒がどんな思いでこれまで生きてきたか、耐えてきたかを考えると言葉になりません。地震にも負けない、強い絆をつくり、亡くなった方々の分も毎日を大切に生きていこうというメッセージが込められています。

